

はなかけぶち

発見！「鼻欠淵要害」

報告者：平井 登

(袋井市春岡・鼻欠淵)

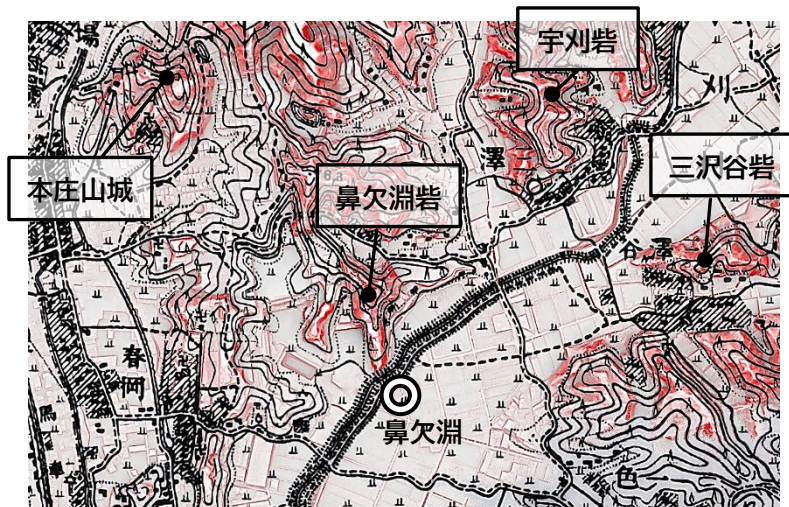
武田家臣・秋山信友軍を迎撃する意図をもって久野氏配下・宇刈七騎が構えた砦か

永禄 11 年 (1568) 12 月、甲斐の武田信玄と三河の徳川家康は、駿河・遠江の国分けを密約し今川領を侵略する。この時、武田家臣秋山信友(虎繫)の軍勢は、密約に反し別動隊として青崩峠から北遠に侵入南下し、宇刈郷(袋井市)において久野宗能一門の兵と交戦したことを『家忠日記増補追加』が記している。

「十八日・・・武田カ臣秋山伯耆守信友、使ヲ遠州久野之城ニ発シテ、久野三郎左衛門尉宗能ヲ招テ信玄ニ属セシメント乞フ、是ヨリ前、大神君酒井左衛門尉忠次ヲシテ久野ノ城ニ趣カシメ玉ヒ、宗能ニ命有テ曰、近日懸川表ニ御発進アリ、于時軍忠ヲ励スヘキノ由御旨ヲ蒙ル、宗能命ニ従フ、故ニ宗能秋山カ使ヲ聴カス、秋山是ヲ怒テ兵ヲ平尾村ニ発シテ久野城ヲ責撃ント窺フ、宗能一族従兵ヲ卒シテ鼻欠淵ヲ要害トシ、進テ秋山ト戦ヒ、軍ニ利ヲ得テ敵ヲ多ク討取ト云トモ、味方ノ兵士久野彦六郎ヲ始テ数十人戦死ス、近日大神君懸川御発進之告ヲ聞テ、秋山平尾村之陣ヲ退、是ニ依テ宗能兵ヲ久野ノ城ニ収ム、・・・」

令和 8 年 1 月から現在まで、油山寺と可睡斎周辺丘陵の城郭遺構調査を行っている筆者が、文書にある「鼻欠淵」の所在地を探しつつ春岡付近の丘陵を調査したところ、宇刈川の浸食で先端(鼻)が欠けた丘陵上に新たな城郭遺構を発見。静岡県遺跡地名表・地図と照合し、そこが「鼻欠淵要害」に比定できることを確認。また、東 800m にある三沢谷の丘陵先端に砦跡と思われる遺構を見つけており、同時期、同目的で運用されたものと捉えている。「鼻欠淵要害＝鼻欠淵砦」は、大手道の向き及び大手虎口の位置から宇刈七騎のうち三沢の長谷川氏、一色の富永氏等が久野宗能の命を受け、秋山信友軍を宇刈の谷に誘い込み迎撃しようとした戦略を伝えている。(平井 登)

参考文献：『古城 43 号』古城確認「北城」：乗松 稔



上図は 3 次元地図と明治時代の地図を合成したもの。
道路開削、宅地造成などで丘陵は大きく削られ改変した。



切岸に残る数多の横穴古墳を備蓄庫・武器庫等に利用か。 南に延びる段曲輪が“鼻欠淵の戦い”の規模を彷彿とさせる。



本曲輪、腰曲輪の切岸に古代の横穴古墳が無数残っている。
横穴は兵糧などの備蓄庫として大いに役立った。



向こうに見えるのが堀切 A。本曲輪の切岸を巻くように通路を兼ねた横堀が周っている。

鼻欠淵砦 縄張図

作図：乗松 稔
調査日：2026.7.15



本曲輪や段曲輪の縁際に土壇、土塁跡も一部に残るが、後世、畑地となり改変している。



堀切 B 付近で作図する乗松氏

